

幼稚園の建物と庭

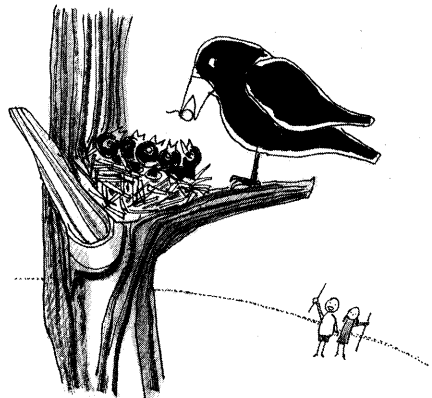
田中都慈子

子どもたちが毎日過ごす幼稚園について考えてみる時、お茶の水女子大学の附属幼稚園の建物は、大変すぐれた建築物だと思っております。子どもたちをとりまく環境として大切にされてきた園舎と園庭、現在の子どもの活動を、かつて園児として過ごした時のことを思いおこしながら、ながめてみたいとおもいます。

この建物は、昭和七年、現在の地に建てられてか

ら、約六十年経っているのですが、今なお堅牢で、落ちつきと品格を備えています。

地震の時でも、外に出るよりも中に入っている方が安全といわれるこの建物の中は、ほんとうによく考えられていると思います。平屋は、安全で体力的にも大変楽です。そして玄関から一番奥の遊戯室へ広い廊下が通っていて、その両側に部屋が並んでいます。南側には、保育室と用務員室があり、子ども



たちが、一年中快適に過ごせるように配慮されていて、冬などは、保育室の半分以上日が入り、暖かである。北側の暗くて寒い部屋と対照的です。北側には、園長室、職員室、保健室、教材室、コートかけ、手洗所などがあります。

○広い廊下

建物の真ん中を通る廊下は、北側の部屋と保育室を結ぶものですが、保育室の延長としても機能していて、他の組と交り合い、情報交換をする要路でもあります。天井が高く、明かり取りのところにステンドグラスがついていて、太陽の位置によって床にポツと光がさしたりします。ペンダントやさん、レストラン、郵便局、あめやさんなどが出て、お客さんの長い列ができていたりします。またついたてを置いて、指人形やベープサートの劇をして、観客の椅子が並ぶこともあります。カーペットやごきをもつてきて廊下でお家ごっこをはじめたりもします。

また、お帰りの時は、各保育室から玄関まで、子どもたちが一列に並んで帰って行きます。各組の担任は、列の最後まで見渡すことができるのです。

○保育室

各組のドアの上には、組の名の森・川・林・池・山・海のステンドグラスがついています。壁が厚いので、ほとんど隣りの部屋の音は聞こえません。ドアを閉めて静かになるとわずかに聞こえる程度です。

保育室には、何十年も使いこまれた木の机や椅子が、今もなお使われています。どの部屋も三段の階段を下りてすぐに庭へ出られるようになっていす。そしてその階段は、腰かけて上靴をはく場所になったり、時には、これからどんなあそびをしようかと友だちと相談する時にも使われます。

○遊戯室

一段高く舞台があつて、グランドピアノがのつて
います。お誕生会の折には、その月のお誕生児がそ
の上に並び、みんなでお祝いをします。始業式や終
業式、クリスマス会には親子でいっぱいになりま
す。大きな組が、舞台の上でバレエや劇あそびをす
るのを小さな組が、三々五々見にきたりすることも
あります。長椅子にすわつてみるのですが、その椅
子も昔からのものです。

使いこまれて長い間に角がすりきれて丸くなつて
しまった大型積木もあります。

窓の外は緑が多く、二方にある窓を開けると、風
が通つて夏も涼しいところです。庭に面したドアか
らテラスに出られます。そこでは現在、お家ごっこ
やレストランごっこが盛んです。

○ 園庭

広い庭には花壇や築山があり、もっと奥の高いお
山につながっています。園庭には、砂利がしきつめ



◀ 保育室から園庭へ。左側がお山。

てあって、雨や雪の後でも、すぐに出て遊べます。大雪の日に、雪ですべり台をつくって遊んだことが思い出されます。砂場は、各保育室のすぐ前にあります。

子どもたちの遊びの中には、毎年大きな組になるとするという引き継がれていく遊びがあります。その一つとして、運動会近くになるとはじまる「山回りリレー」があります。庭の中央にある花壇の前からスタートして、山を一周して帰ってくるというものです。

築山をバックに、たいこ橋、すべり台、ジャングルジム、山からおりてくるくねくねすべり台、つり輪、太い麻縄で下がっている細い木のぶらんこ、その隣りに大きな組が使っている鎖のぶらんこ、そして鉄棒と並んでいます。遊具も昔とほとんど変わっていません。今年から、藤棚の隣りに新しく二方から登る木製のすべり台も入りました。

浅い池ですが、小さな滝もあって、水が流れ出て



くるようになっていきます。今は、あまり使われませんが、木切れて作った船に色をつけ、裸足になって友だちと池に浮かばせて遊んだことを覚えていません。

お山の上にも鉄棒とジャングルジム、太い丸太の一本橋、丸太を縦に高低つけて止めたものがあり、階段になったり、基地になったりしています。低いつり橋のような木製遊具も新しく入りました。

春には、クローバーやタンポポの花が咲き、子どもたちが花を摘んだり、虫さがしをしたりしています。大きいちょうは、初夏には、青々と繁り、秋には、葉が真っ黄色になり、その風に散る様は、真に壮観です。初冬の日ざしを浴びて黄色の葉っぱのじゅうたんの上でいただくおべんとうも格別です。

沢山の卒業生が、かつていろいろな思いで過ごした幼稚園の建物と庭が、今もなお変わらずに存在するということは、すばらしいことだと思います。車

寄せのついた幼稚園の玄関の扉を開けた時や、保育室に入った時のあの独特の匂いも、元のままです。

古いものが、どんどんとり壊されて、新しいものに変わっていく現代の風潮の中で、この風格のある立派な幼稚園の建物とそれをとりまく豊かな自然、そして長い歴史をもって受け継がれてきた自由保育の理念が、これから先も残ってほしいものと思っております。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)